

チャドクガの幼虫の発生

石 沢 進

近年、ユキツバキの葉を食害するチャドクガの発生に関心を持っている。チャドクガの幼虫の異常発生により分布限界のユキツバキがほとんど食害され、枯死状態に達している例もある。また、チャドクガの幼虫の発生は、比較的低所に多く、これまで海拔の高い地域で極めて少ないと思っていたのに、高所での食害がみられる。1990年から1992年までは年ごとに被害が大きく、低所から高所にもみられるよう感じている。多くの事例をもとに、その傾向をつかんだわけではないので、確かではないが、チャドクガの幼虫の発生が気がかりである。

1) 分布限界地での食害例

岩船郡朝日村塩野町に位置する新保岳では、ユキツバキは海拔360m付近で分布の上限となり、それより上部には生育していない。この生育の限界地でチャドクガが発生し、枝に殆ど葉がなくなるほど食害を受けている。1990年に食害の状況を確認し、翌1991年再度同所を訪れたところ、一部は新しい葉が開き回復している個体もあったが、殆ど枯死した個体も多くみられた。

2) 高所での食害例

ユキツバキは低地から海拔1400mまで分布するが、多くの山体では、1000m以下に生育している。岩船郡朝日村鷲ヶ巣山でも約1000mまで分布している。1992年には、チャドクガの発生がこの山の600m付近でみられた。随分高

所での発生ではないか、と思われる。

3) 年による発生の変動

年による発生状態を詳しく調べてはいないが、我家のツバキの食害は、1992年の夏には多く、かなりの葉が被害を受けた。1993年は低温のためか、その発生はきわめて少なく、8月18日に1集団が葉2枚を食害していたのみみただけで、それ以外には、現在のところ幼虫の発生をみていない。野外でも1992年には、異常に発生し、群落の大部分の葉がなくなってしまった例をいくつかみている。前記の新保岳、鷲ヶ巣山の他、五泉市菅名岳、新発田市赤谷加治川松ノ木穴沢などである。

近年、雪が少ない年が続いている。冬期の降雪量や今年のような冷夏が、チャドクガの幼虫の発生と関連するのではないか推察している。チャドクガの幼虫の発生について情報を寄せて頂ければ幸いである。

チャドクガの幼虫やそのぬけがら(脱皮)に触れると皮膚に炎症を起し、かゆみを訴える。触れるとすぐに症状がでるようで、“デンキムシ”と呼んでいる地域もあるようである。植林の下刈りの際に被害を受けて、ひどい経験をしたことがある、と営林署の職員に聞いたことがある。ひどい被害を受けた経験についても情報を寄せて頂ければ幸いである。



写真：チャドクガ食害後のユキツバキの枝葉（新葉のつかない枝が多い）

五泉市菅名岳

1993. 6. 1